

平成13年度当初予算 基本事務事業目的評価表

[基本事務事業名] 美術館事業(102)

[評価年月日] H12年10月12日

[担当部課名] 三重県立美術館

[記入課名・課長名・電話] 三重県立美術館 館長 白石和己 059-227-2100

1 総合計画の政策体系上の位置づけ

政策 : (I-3) 文化・スポーツの振興

施策 : (1) 人と地域を支える文化の振興

総合計画の目標項目 美術館入場者数 13万人/年

波及効果 副次的効果を及ぼすと考えられる施策 : 生涯学習の推進(I-2-1)

2 基本事務事業を巡る環境変化(過去、現状、将来)

生活水準の向上、自由時間の増加、高齢化の進行等により生涯学習への関心が高まり、人々の美術館に対する要望は質的にも益々多様化・高度化してきている。特に、今後県民が家庭にしながら美術館の情報を得られるようなサービスへの要求が高まると思われる。そのため、美術館の収蔵品をデジタル情報化し、魅力ある情報発信を行うとともに、県内外の美術館等とのネットワーク化が必要になる。

3 基本事務事業の目的と成果

3-(1) 対象と意図(何をどういう状態にしたいのか)

美術館は、三重県における「情報発信」「生涯学習」「地域文化育成」の拠点としての役割を担っている。このため、一般県民に様々な美術分野で質の高い美術作品を鑑賞する機会を提供するとともに教育活動及び情報サービスとも関連した地域活動を展開し、特に、生涯学習の視点に立った美術館活動を行うことによって心豊かなゆとりある生活を出来るようにする。

3-(2) 成果指標名・成果指標式(総合計画の目標項目には*を付す)

該当年度の展覧会観覧者数 + 事業参加者数

$$* \text{美術館利用率} = \frac{\text{該当年度の展覧会観覧者数} + \text{事業参加者数}}{\text{三重県総人口}} \times 100$$

変更した場合の成果指標名・成果指標式

3-(3) 設定した成果指標に関する説明(指標動向に影響する要因、指標の有用性、設定の理由など)

展覧会観覧者数

美術館で開催の展覧会観覧者、移動美術館観覧者

事業参加者数

美術講演会及び美術講座聴講者、美術セミナー参加者、ミュージアムコンサート入場者、ワークショップ参加者、県民ギャラリー利用者、ハイビジョン室利用者(図書利用者を含む)、日曜映画会鑑賞者、ホームページアクセス数

3-(4) 結果(施策における2010年度の目標)

芸術文化に対する県民の理解が深まり、県内各地域で美術館活動に親しむ人々が増加するとともに、優れた美術作品を鑑賞する機会が増え、精神的にゆとりある生活を送ることが出来る。

4 基本事務事業の評価

4-(1) 前年度(H11年度)における基本事務事業の結果評価

前年度に行った内容と成果

- ・例年実施している主要事業はほぼ同じであるが、前年度は美術館への贈りもの - 珠玉の絵画展、ヒューストン美術館展、パリのカフェと画家たち展等質の高い企画展が多く好評であった。従って入館者数も通常より多かった。
- ・比較的経費のかからない他館(神奈川県立近代美術館)との交流展「眼のゆくえ、手の変幻」(2000年1月4日~2月13日)を実現した。
- ・収集作品数は計31点であった。

前年度に残った課題

- ・質の高い人気のある企画展には多額の費用がかかる。
- ・彫刻展（彫刻の理想郷〔アルカディア〕）の入館者数が絵画展に比べ少ない。入りのいい絵画展の半数又は3分の1である。

4-(2) 本年度(H12年度)における基本事務事業の見込み評価

本年度行っている内容と本年度終了時に見込まれる成果

- ・2000年4月1日から5月7日まで茨城県近代美術館において同館主催による三重県立美術館コレクションによる「日本洋画のれきし」展が開催された。
- ・比較的経費のかからない他館（宮城県美術館）のコレクションで企画した「洲之内コレクション 気まぐれ美術館」展を開催したり、当館の収蔵品で企画する「子ども美術館」「新収蔵品展」等の展覧会を開催して、従来の展覧会の在り方の見直しをし、経費のかからない展覧会を開催していく方向性を来年度（H13年度）に繋げていく。

本年度残ると思われる課題

- ・本年度も彫刻関係の企画展（山本正道展）は、入館者数が5,716人と少なく、今後は彫刻展の開催頻度、内容等を検討する必要がある。

5 基本事務事業の改革方向

- ・海外展等の企画展には多額の費用がかかるため、今後は収蔵品を活用した展覧会の重視、他館のコレクションを中心とした交換展の開催等、企画展と常設（収蔵品）展のバランスを考え、企画展の在り方、収蔵作品展示の在り方を検討する。
- ・入館者の増加を図るためのより効果的な広報体制の確立。（新たにホテル、書店への広報の展開）
- ・入館者をベースとする評価のみでなく、数値化の難しい文化の質、文化度を含めた評価の確立。
- ・県民がいつでもどこでも手軽に活用できる美術情報サービスの向上。
- ・活発な展覧会・美術館教育普及活動が展開できる施設の充実。

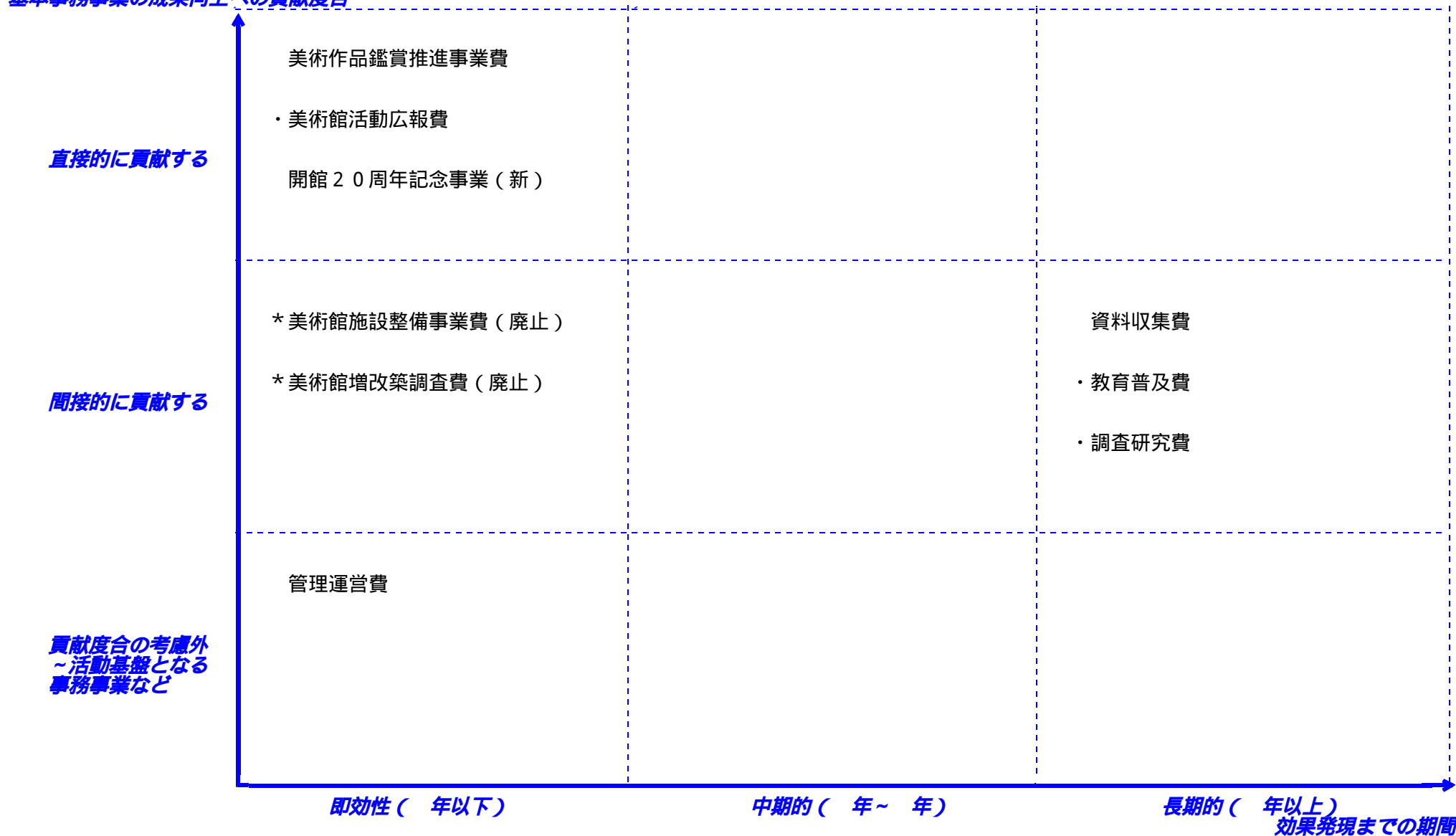
6 成果指標値及びコスト等の推移

	成果指標値		総合計画 目標数値	予算額等(千円)	
	目標	実績		所要時間(時間)	必要概算 コスト(千円)
前々年度 (H10年度)	6.57	6.44	115,706 人/年	402,515 26,406	512,893
前年度 (H11年度)	4.40	7.77	118,388 人/年	400,641 23,603	498,594
本年度 (H12年度)	5.32		120,000 人/年	361,252 29,369	483,134
本年度補正後 (H12年度)				+(or) +(or)	+(or)
翌年度 (H13年度)	8.42	_____	130,000 人/年	417,738 27,240	530,784
計画目標年次 (H13年度)	8.42	_____	美術館入場者数 130,000 人/年	_____	_____

7 翌年度(H 13年度)の基本事務事業における事務事業戦略プランシート(PPM: Project Portfolio Matrix)

必要概算コスト： 5億円以上 ~ 1億円 ~ 5千万 ~ 1千万 ・ 1千万未満 * 休止・廃止

基本事務事業の成果向上への貢献度合



各事務事業名の右に付した矢印は、それぞれの事務事業に対する力の入れ具合である「注力」の変化の方向を表している。

